12月号

ステパノだより

No.227

今月の聖句

『おめでとう、恵まれた方。
主があなたと共におられる。』
ルカによる福音書　第1章28節

◎12月の予定
1日(土) 学校説明会③
3日(月) むかえようクリスマス（中）
5日(水)～21日(金) 時間割変更期間
13日(木) クリスマス礼拝
教務委員会
14日(金) 子どもたちの祝会
15日(土) クリスマス祝会
17日(月) クリスマス祝会代休
21日(金) 2学期終業礼拝・教職員協議会

◎1月の予定
7日(月) 教務委員会
教職員協議会
8日(火) 3学期始業礼拝
9日(水)～10日(木)
入学（小）・転入学願書受付（小・中）
10日(木) 校内研修会
15日(火)～17日(木) 体験学習②（中）

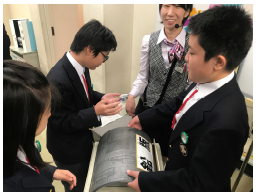
秋の遠足

小1・2〔油壺マリンパーク〕

小3～5〔宮ケ瀬ダム・あいかわ公園〕

修学旅行

中1・2〔築地～朝日新聞本社～聖路加国際病院〕



小6〔名古屋・犬山〕

中3〔広島・姫路〕

〈今月の行事から〉

☆クリスマス礼拝　13日（木）

イエス様のご降誕を祝うクリスマス。アドベント（降臨節）に入り、学園内は飾りつけをして、クリスマスを待ち望みます。当日は平塚・聖マリア教会の島田司祭の司式のもと、礼拝をおこないます。礼拝の中では、児童・生徒・教職員の聖書朗読、ハンドベル部の演奏がささげられ、クリスマスメッセージを皆で聞きます。

保護者の方々にもお越しいただいて、ご一緒に礼拝をおささげできたら幸いです。

☆子どもたちの祝会　14日（金）
クリスマス祝会　15日（土）

今年は、小学校はオリジナル劇です。子どもたちはセリフを覚えたりして、一所懸命練習に励んでいます。どのような劇かは当日のお楽しみです。

また、中学校が聖劇の担当です。イエス様のご降誕をお祝いする聖劇。生徒たちは役者を選ぶ子もいれば、大道具や照明などの裏方となって劇に参加する子もいます。会場の皆様と一緒になってクリスマスをお祝いしたいと思います。

※子どもたちの祝会は、児童生徒がお互いの劇の発表を見合う会です。

おのが色あり　おのがかたちあり

学園長　　小川　正夫

今年は、明治時代、日本が近代国家を目指し始めて百五十年ということで、当時の国の指導者をしのび、大磯の町も様々な催しが企画されていました。旧吉田茂邸も総檜造りで新しく建て直され復元、大磯町郷土資料館もリニューアルされており、先日訪ねてみました。

二十三年前、初めて資料館を訪れた時に、「大磯の風土とかたち」を歌った二十九首の和歌が銅板に刻まれ、石の壁に収められていて心を惹かれました。その中で特に印象に残ったのは、佐佐木信綱の和歌で、今もそのままに銀色のパネルに納められていました。

「かず知らぬ　浜の小石もそれぞれに
　　おのが色あり　おのがかたちあり」

私はこの和歌が好きで、ここを訪れると必ずその前に立っています。

大磯の浜辺には、指の爪ほどの小石が数えきれないほど遠くまで広がっています。手にとってよく見ると、小石の一粒一粒に違った表情があり、同じものはなく、数千年もの間磨かれて小さくなった歴史を想うと、それぞれに愛おしさを覚えます。

振り返ってみると、百五十年の歴史の半数以上、昭和の時代を五十七年、平成の時代を三十年生活、その間、子ども達と交わっていたのはおよそ六十四年になり、初めて受け持った小三の少年が七十を超えています。

学校生活で出会った子ども達はたくさんおりましたが、一人ひとり、みんな心優しい笑顔がありました。彼等は顔かたち、表情、性格は全く異なり、同じ面立ち、同じ性格を持った子は一人もおりませんでした。

当たり前と言えば、それまでですが、みんな立派な社会人になり、子どもや孫を紹介してくれるようになると、町で出会っただけでは判らなくても、少し話していたり、笑顔になると昔の笑顔に戻り、優しい人柄も子どものころを思い出させてくれます。

子ども達が心も体も成長していく姿を見るのは教師にとって、親にとっても生き甲斐を感じます。私達が、いつも心に覚えていて間違いないのは、目の前の子ども達は、このまま大人になっていくわけではない、必ず、自分の力で生きていけるようになると自信を持って子ども達に接することです。そのために大事にしたいことを「和顔愛語」と言っていた教育者がおりました。つまり、穏やかな笑顔と温かい言葉で子ども達と心の距離を近づけることが大事だということです。

勿論、様々な配慮は大切ですが、甘えさせて特別扱いするということではありません。

貴方はやらなくてもよいということではなく、持っている力を確り生かす動機付けを、注意深く、積極的に関わることが必要です。

殊に日常生活の約束ごとは身に着けることは大事です。人を傷つけたり、苛めで人に不快な思いをさせたり、非社会的な行為が許されるということではありません。

急がず、たゆまず、忍耐をもって、子ども達を信じて関わる事です。

先日教職員の校内研修会で、講師の先生が *"Equality doesn't mean Justice."*（公平は公正を意味するものではない）と結んでいましたが、子ども達は、一人ひとり個性があって同じではない、それぞれに教育的な必要性は異なり、一律であってはならない、多様な教育的ニーズに対応できるような多様な教育的配慮が必要であり、そのために積極的に努力すべきだというように纏めておられました。

同じく行われた十一月の教職員の聖書教室では、基督教の精神を礎に置く聖ステパノ学園を明日に向かってどのような学校にしていきたいか、思うところを全教職員に対し事前に纏めてもらい、それぞれに自分の声で発表してもらいました。発表するとは伝えていませんでしたので、所謂、模範答案ではなく、思いのまま自由に書いており、同じ意見はなく、それぞれに個性が出ていて、全員が仲間の意見に耳を傾け、学び取り、お互いに心の距離が近くなっていたようでした。皆様のお力添えで、総合発展計画、環境整備も順調に進んでおります。教職員は皆、教育者として更に成長すべく、その資質向上に向かって努力している姿を感じました。

明るい希望の新年を、お迎えください。

保健体育の教科書から

教諭　和田　好江

私は高校三年の頃、「自分にはバレーボールしかない、体育の先生になりたい。」と夢を持ちました。部活ではプレーヤーでしたが、人の世話を焼くのが好きでした。逆を言うとお節介なのですが、先輩やチームメイトにレモンの砂糖漬けを振舞ったり、テーピングをしてあげたり、マッサージをしてあげたりと、今でいう「トレーナー」という仕事にも憧れていたかもしれません。学生時代に興味のあった科目は、解剖学や運動生理学など体に関するものでした。自分の体はこういった理由で日々生活できている、運動できている、と知識を得ました。運動の発現と体の使い方、骨と筋肉の仕組み、エネルギー代謝、運動と栄養等、好きな分野はたくさんあります。ですから、高校生の頃から高校の保健体育の教科書や実技書が好きで、卒業後大人になってからでも、折に触れては開いていました。

その保健体育の教科書に、「自律神経の働き」を図にしたものがありました。皆さんも学ばれたと思いますが。交感神経と副交感神経の分業体制で健康が保たれていて、それぞれ優位になったときに、興奮し緊張するのと、リラックスするのと交互に働くようになっていることが解るものだったと思います。人間の機能、仕組み、働きって凄いと感心したものです。それが、この年齢になると自律神経をバランスよく整えて生活することがどれだけ大切か、ひしひしと感じます。そうです、子どものころや若い頃は、自分に起こる心身の乱れ、疲れたら寝れば回復といった単純なことで何とかなっていたり、自然とリカバリーできていたりしたのですから。今は自分で意識し整えなければなりません。

さて、一時期『癒し』という言葉が流行しましたが、なんだかこの言葉は「自分に甘い」様に感じ好きではありませんでした。仕事でも私生活でも、意のままに毎日を過ごしていましたので、必要性を感じなかったのでしょうか。つまり、自律神経の働きでいう副交感神経が優位になるような、リラックス効果を得られる事で使われている言葉ですが、今なら私も実感です。様々なストレス環境や出来事に、現代人は過剰なまでに神経を使っています。交感神経が優位に働きを過ぎているのでしょう。

そうは言っても、適度なストレッサーは人を成長させてくれるものであります。大きな事件・事故などは別として、苦手だけどやってみようという意欲が出て、取り組んでみて、乗り越えられると達成感や喜びが得られます。これは、子どもにも大人にも言えることだと思います。自ら向かえる健康な心身の体力をもっていることです。

最近は健康志向の高さからか、自律神経のことが書かれた書籍が多く出版されています。

『私が心掛けている副交感神経の優位』

①規則正しい生活
②質の良い睡眠
③適度な運動
④適当な休息
⑤好きな趣味
⑥入浴や栄養補給
⑦体を温める
⑧笑う

私は学校で働かせていただき、子どもたちの健康が自分の笑顔の毎日に繋がっています。

中学の保健体育の教科書では、飲酒・喫煙・薬物乱用などの内容が詳しく載っています。中学生の授業中に、「どうして体に悪いことを大人はするのか」と中学生から質問されます。『誘われたときにどう断るか』の授業では、「悪い大人や年上の人がたくさんいるからね」とはっきり伝えます。また、様々な事件や事故のニュースを取り上げ、なんて悪い大人社会なのだろうかと腹立たしく思うこともあります。

是非、大人の方も保健体育の教科書を開いてみてください。子どもに向けてわかり易く書かれていますのでお勧めです。当たり前の生活の仕方が書かれています。私たちの社会は、子どもの周囲の生活環境や関わる大人で構成されています。私たち大人が心身共に健康であることが、心身共に健康な子どもを育てることに繋がります。健康であることは平和をつくること、そう願っています。

全力

教諭　赤田　祐章

十一月二十三日(金)、神奈川県私立小学校サッカー交流会に、運動クラブの十三名が参加しました。

①全力でプレーする。
②審判のジャッジに従う。
③相手(味方)に敬意を払う。

この三つを目当てに、助け合うサッカーを楽しんできました。

運動クラブは特別活動の一つとして行っています。委員会活動・花いっぱい活動(美化活動)と順に行っているので、月に一回の活動です。夏休みに何回かできますが、練習量は圧倒的に少ない状態でした。

十月上旬、会場校の森村学園初等部から、交流会開催のお知らせが届きました。出場の意思を子どもたちに聞くと、

「出たい！」

と一気に盛り上がりました。しかし今のままでは練習量が足らないことは明白でした。他の参加校へ失礼のないように準備をするにはどうすれば良いか問いかけ、朝練をすることを提案しました。晩秋に差し掛かり、もう少し布団の中でぬくぬくしていたい季節。子どもたちの中に迷いがあると思いました。が、

「やらせてください。」
「朝練は明日からですか？」

とやる気が漲っていました。明日から練習を開始したい気持ちを自分が抑え、学校内で了解をとり、十月二十九日～十一月二十一日まで、計十三回の朝練を行いました。練習内容は基本的なルールの再確認。子どもたちの得意なプレーや体力を考えてポジションの確定。ゲーム形式では途中でもプレーを止め、何が良い動きなのかを確認しながら指導をしました。今年は、自分たちで考え、動くことができる子が多く、みるみる上達するのがわかりました。体調不良で欠席をする児童がいましたが、無断欠席なし。やる気が最後まで持続しました。

一番悩んだのは『キーパーを誰にするのか』でした。四月の時点では積極的にキーパーをやりたいという児童がいない状況でした。キーパーがいないとゲームが始まりません。キーパーが負傷したときは、手当が終わるまで、または新しいキーパーが準備できるまでゲームは再開しません。それだけ大事なポジションも、「点を入れられたら自分のせいになるのではないか。」とか、「ゴールを決める方がカッコいい。」という理由で敬遠されがちです。しかし最後になって、「やりたい」と言ってくれる子が出てきました。その子には、昼休みに特別練習を行い、ボールの取り方・蹴り方・ハイボールをとる時の体の守り方を伝えました。体育科の先生からも、

「今年のメンバーは面白いね」

と言っていただけるようになり、本番を迎えました。

交流会当日。会場が遠方のため、ストレッチしかできない状態で戦った森村戦。終了時にはキーパーが滝のような汗。対戦相手の猛攻が良く分かります。ゲームに慣れてきて、ボールを回せるようになったが、決定機に決められなかったセシリア戦。相手陣内でより多く攻撃をしたが、二本の速攻を決められてしまったカリタス戦。後半に落ち着きを取り戻し、何度もチャンスを作った関東六浦戦。以上四試合を行い、ゴールを奪うことができず全敗で終わりました。しかし、相手にゴールを奪われても、すぐリスタートをするために、センターサークルに走ってボールを持って行く。仲間がミスをしても、カバーするためにみんなが動く。最後まであきらめず、ボールを全力で追いかける。結果は伴いませんでしたが、今まで私が関わってきた運動クラブの中で、今年が一番良いチームでした。

「お！お！お！」
「あ～～～」

と空を見上げることが多くありましたが、見ていてとても楽しい試合でした。

最後に、応援に来てくださった保護者の皆様、ありがとうございました。来年は今年のチームをベースに一勝を目指します。

自分で考えよう

学校図書館司書　平野　朋子

大学を目指す受験生の約９割が受ける大学入試センター試験が、２０２０年度（２０２１年１月）から大学入学共通テストに変わります。今のセンター試験は、用意された答えの中から適切なものの番号を選び、「マークシート」と呼ばれる解答用紙上のその番号を塗りつぶすマークシート式です。共通テストでは、マークシート式の問題に加えて、思考力や判断力を測る新しい問題や、正解が一つとは限らない「正しい答えをすべて選びなさい」という問題も出るようになります。英語は「読む力」「聞く力」に加えて「話す力」「書く力」もあわせて４技能を測るため、民間の資格・検定試験も活用されるようになります。

文部科学省によると、知識を詰め込むだけの教育では、激しく変化する社会に対応できないため、「学力の三要素」を伸ばそう、そのために入試を変え、それに合わせて高校までの教育を変えようということです。学力の三要素とは、

- ●基礎的な知識と技能
- ●知識と技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力
- ●学習に取り組む意欲

ということです。

「思考力」や「表現力」を伸ばすためにはどうすればよいのでしょうか。

普段の生活の中で、私たちは考えていないようで、毎日何かを考えて暮らしています。休み時間に何をしようかな、というようなことや、テレビやネットで見たニュースのことなど、いつも何かを考えているのではないでしょうか。

ここで大事なのは、「考える」という行為を誰かに任せてしまわないことだと思います。自分で考え、判断することが大切だということ、誰かの意見をそのままうのみにするのではなく、自分はどう考えるのか、なぜそう考えるのかを日常的に行うことだと思います。

同じ事柄でも、何を感じ、考えるかは人それぞれです。話してみると、自分とは違う考えに面白いと思ったり感心したり心配になったりします。会話をすることで自分の意見を相手に伝え、相手の考えを知ることができます。子ども達とおしゃべりをする時には、「どうして？」と聞いてみることにしています。「考え」だけを聞いていると分からないことが多くて、何と答えたらよいのか困るからです。理由を聞いてみると、その子の興味関心を知ったり、不安や心配事に気づくことができます。

実際に自分の目で見て触って発見する喜びは、とても大切です。海と山に囲まれた大磯で、子ども達は毎日、自然から学んでいます。それと同時に、本を読むことで行ったことのない地域や時代の様子を知ったり、先人が苦労して発見し残してくれたことや、色々な考え方に触れて、ものごとを見極めていける力を養ってもらいたいと思います。本を読むことは、自分の考えかたを育てることです。

知っていることを増やすことは、選択肢を増やすことにつながります。例えば物語や絵本の中にも、子ども達に人気のあるひみつシリーズにも、様々な職業が出てきます。世の中には色々な仕事があって、自分達がいつも使っている道具や給食の食材も、ここに届くまでに何人もの人の手を経ているのだということに気づくこともできます。

将来、進路を考える時の参考になるかもしれません。また、一つの考えだけにとらわれないで気持ちが楽になったり、可能性が広がったりするかもしれません。

本を読むことは、自分で考えるくせをつけるのに役立つと思います。もちろん、心が満ち足りて幸せを感じることもできます。これからも、子ども達と一緒に読書を楽しんでいきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

【小学校】十月三十一日は、秋の遠足でした。一、二年生は、油壷マリンパークへ、三～六年生は、宮ケ瀬ダムとあいかわ公園に行きました。

小一　N・H

わたしは、きのう、えんそくにいきました。ペンギンのマスコットが、かっこよかった。コツメカワウソがかっこよかった。イルカショーのイルカもかわいい。

えんそくのべんとうは、おいしかった。いろんな生きものがいた。

いろんな生きものが見れたえんそくでした。さすが小学生。十五人ぜんいんえんそくにいけました。

小三　H・T

ぼくは、聖ステパノ学園のみんなで、宮ケ瀬ダムへ行きました。

バスの中では、クイズをしました。とう着するまで、長くてつかれました。

宮ケ瀬ダムは、大きくて放流口が四角形でした。

一番おもしろかったのは、放流口から、水が、「どーっ」と、出てきたところです。

宮ケ瀬ダムに、また行きたいです。

五年生は、秋・遠足をテーマに俳句を作ってみました。

宮ケ瀬ダム　放流口から　水が来た　M・M

秋の空　くもがたかく　見えている　K・S

水だ水　きれいに流れる　水だ水　A・M

川の石　どんどん形を　変えていく　A・S

空の下　長い坂道　くり集め　F・K

さつまいも　あたたかいよね　おいしいね　S・O

お月見だ　うさぎがおもちを　ついている　H・F

十一月一日から二日の一泊二日で名古屋・犬山方面に修学旅行に行ってきました。

小六　S・K

今日は、修学旅行に行きました。朝早く学校を出発して名古屋まで新幹線で行きました。すごく久しぶりに乗ったのでまるで夢のようでした。そして、名古屋に着き名古屋港水族館に行きました。いろいろな生物が見られました。特にシャチは、迫力がすごかったです。そして、次に味噌煮込みうどんを食べました。このお店は、小栗旬がよく来てるので、いるといいなと思っていたら、いませんでした。残念でしたが味噌煮込みうどんは、とてもおいしかったです。

そして一番楽しみにしていた科学館に行きました。いろいろ楽しいものがありました。特に消防車が楽しかったです。そして、旅館に行きました。

二日目の朝は、朝風呂に行ったあとに犬山城に行きました。犬山城は、外見がとても迫力がありました。中に入ると階段がとても急でした。一番良かったのは、五階からの景色でした。とても涼しかったです。そして、犬山城を出たら、バスでリトルワールドに行きました。リトルワールドでは、メキシコサーカスを見ました。どれもすごかったです。その中でも特にすごかったのは、ジャグリングでした。そして、サーカスを見たあとは、台湾ラーメンを食べました。ピリ辛でおいしかったです。そして、そして、お昼のあとは、バスでリトルワールドを一周しました。大人になったら、また行って全部回りたいなと思いました。そして、リトルワールドを出発して、一時間後くらいに新幹線に乗りました。そして、小田原から大磯まで電車で行き学校に戻りました。修学旅行が小学校の行事の中で一番楽しかったです。

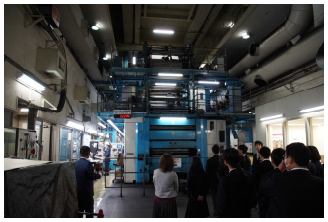
【中学校】遠足は築地から始まり、朝日新聞社本社や聖路加国際病院に行きました。また修学旅行では、楽しい中にもいろいろと考えさせられるものがありました。

両親へ

中一　S・G

朝晩めっきり寒くなった今日この頃、いかがおすごしでしょうか？私たちは、東京へ校外学習へ行って参りました。東京は、ビルが立ち並んでいて、ものすごい人ごみでした。東京タワーやスカイツリーなどを遠くから見て参りました。その後、築地市場を見て回りました。築地場外市場は、たいへん人が多く、とても、ゆっくり見れる所ではありませんでした。そしてその人ごみを後にして朝日新聞東京本社へ向かいました。

本社へ到着して中を見学させていただきました。事務所や新聞を印刷する機械、印刷工程などを見させていただきました。何より本社の敷地がとても広かったので、おどろきました。新聞社を見学させていただいた後は、バスに乗って色々な景色や建物を見て回りました。その他にも色々と書くことがありましたが、長くなってしまうのでこの辺で終わりにしたいと思います。ではまた。



家族のみんなへ

中二　S・M

僕の班は二班でした。まず最初に築地場外市場ではいろいろなお店がありました。例えば魚・肉などがとってもおいしそうでした。そのあとに朝日新聞に行って新聞がどうやってできているのかの工程が見れました。その他に印刷がどうやってできているか見ることもできました。

午後は、水上バスに乗るために公園の中を歩きました。水上バスに乗って隅田川を通って、約十分でしたが、とっても気持ちよかったです。

聖路加病院のチャペルは特別に入らせてもらったのですが、ステンドグラスなどがあってすてきなチャペルでした。

チャペルを見た後は、都内をバスで観光して東京スカイツリーと東京タワーが見えてすごかったです。

最後は城南島海浜公園に行きました。そこでは羽田空港から離陸する飛行機を間近で見ることができて良かったです。

僕は遠足で新聞がどうやってできるのかなど、色々なことが学べて良かったです。

「未来へつなげる思い」

中三　K・H

僕は今回の修学旅行で広島に行ってきた。その中でも特に印象に残ったのが、広島平和記念資料館だった。第二次世界大戦でアメリカによって落とされた原子爆弾。その威力と範囲は自身の想像を越えたものだった。

平和記念資料館に行き、最初に目に入ったもの、それは原爆が落とされる前の広島の姿だった。町は明るく、人もたくさんいたが、八月六日午前八時十五分の写真を見た。僕は信じることが出来なくて再び落とされる前の広島を見た。落とされた後の写真を見ると、建物一つキレイに建っていない。僕は写真を見た後、その場にいたというおばさんの話をテレビで見た。話では木は燃え、町中火の海だったと言っていた。

僕はこの情報や写真を見て核兵器の怖さ、危険さを改めて知った。それに比べると今がどれだけ幸せかということを実感した。これからの未来も過去の悲劇を繰り返さないようにしたいと思う。

旧体育館をめぐる第二話です。

体育館は、時に迎賓館ともなりました。お客様は、ジョセフィン・ベーカーさん（米国のジャズ歌手・女優。アフリカ系の血を引き、社会の偏見と闘った）、昭和天皇・皇后両陛下、パール・バック女史（ノーベル文学賞作家。知的障害をもつ自身の子と6人の孤児を育てた）…忘れえぬ顔ぶれです。

２００２年、今上天皇・皇后両陛下がお見えの際は、子供達、歌で歓迎しました。アーメンハレルヤの歌声に合わせ、美智子さまも静かに口ずさまれていたそうです。

「そうそう、ブラジル渡航の見送りもしましたねえ。荷物は教室一つ分。船に積み込むためのリストを作るのが大変でした」元教諭の池澤登志美先生は、１９６０年代、卒業生がブラジルに入植した頃のことも鮮明に記憶しています。当時、ママちゃまはブラジルと大磯を往復し、その道中、多彩な人脈を駆使して各界の著名人に働きかけ、寄付を募ったのでした。常に苦境と隣合わせの日々。「外では強い方だけど、疲れ果ててここに帰ってくると、ハイヒールを手にぶら下げ、裸足になって。信仰半分、意地半分よって、いつも言ってらした」と池澤先生は回想します。

１９５３年の開校以来、聖ステパノ学園はいくつもの苦難を乗り越えてきました。そしてどんな時も、岩崎山の若葉や紅葉、夏の木漏れ日、クリスマス、自然と祈りと共にありました。人の営み、四季の移ろい。その一部始終を、古い体育館は見守ってきたのです。

今回の体育館建て替えについて、学園長先生は「愛着ある建物を惜しむ声をたくさんいただきました。ただ、一番大切なのは、子供達の安全や学び。できうる限りで最高の質のものを与えたいのです」と説かれます。

池澤先生は「建物が新しくなっても、ママちゃまは学園が自分の手の届かない所に行っちゃったなんておっしゃらないはず。命を大事にする方だったし、怖れず、ひらめきを実行に移す方だったから。学園長先生のお考えは、その精神に深い所でつながっているんじゃないでしょうか」と話を結ばれました。さて、取材の数日後。池澤先生からお手紙をいただきました。校章についてです。１９７８年の卒業文集にママちゃまの説明がありました、と。「赤は情熱を、青は空と海を表し、広大な心を示しています。（在学中はもちろん）卒業後もくじけずに神様より賜った生命を大切にして、大きく社会に羽ばたいていこうという意味です」

古い体育館をきっかけに、掘り起こされたこと、再確認したこと。晴れやかな記念日も慎ましい日常も、すべて私達の礎であり、誇りです。だから私達も、未来を向いて、今を懸命に生きていく。その軌跡が、新しい歴史を形づくっていくのです。（了）

STEPHEN'S NEWS

【表彰】

○実用英語技能検定
〈４級〉小６ S･K 中１ R･O 中２ S･A、J･K

○日本漢字能力検定
〈６級〉中１ N･I

○第 25 回 夏休みに描く絵画コンクール
入選 小６ Y･F

○平成 30 年度
大磯町小学校交通安全ポスターコンクール
優秀賞 小４ R･K

○平成 30 年度
大磯町中学校交通安全標語コンクール
優秀賞 中１ R･O

※お詫びと訂正※

11月号の表彰で誤りがありましたので、左記の通り訂正しお詫びいたします。

〈実用数学技能検定〉10級 小２ P・S
〈日本漢字能力検定〉10級 小２ R・C

【編集後記】

クリスマスのお祝いに向けて、子どもたちは今からリースを作ったり、劇の練習をしたりと楽しんでいます。（さ）

代表者 学園長 小川 正夫
発行者 聖ステパノ学園小学校・中学校
ステパノだより編集委員会
〒二五五-〇〇〇三 神奈川県中郡大磯町大磯八六八
TEL ０４６３-６１-１２９８
FAX ０４６３-６１-９７３９
http://www.stephen-oiso.ed.jp
二〇一八年十二月五日（水）発行 第227号